

◆年末年始 恒例祭のご案内

○大祓式 歳晩祭

十二月三十一日 午後二時

半年に一度個々の罪穢れを形代で祓うと共に一年の御加護に感謝を捧げます。 ※神社よりお配りした形代(大形)は各自でのお祓いにご利用いただき、二が日中に神社までお持ち下さい。

○元旦祭

一月一日

新年を言祝ぎ、皇室の弥栄と国家の繁栄、そして氏子崇敬者の平安と幸福を祈念致します。

○家内安全特別合同大祈願祭

一月一日 午前十一時

参列された家々の家内安全・家運隆昌など、新年にあたり、合同にてご祈禱を致します。

※ごなたでも参列出来ますので、希望者は十五分前までお越し下さい

○どんと祭 神楽初奉納あり

一月十四日 午後六時～九時

古いお神札などを清浄な火でお焚き上げし、御神火に無病息災を祈ります。 三が日やどんと祭は甘酒を振るまいます

◆御祈禱のご案内

○家族並個人及団体祈禱

一月一日 午前七時～午後一時

※随時御奉仕しておりますが、お受け出来ない時間もありますので、事前にご連絡下さい(要予約)

二日以後は通常通り予約制にて 午前九時～午後四時頃まで 毎日御祈禱を行います

家内安全祈願 厄除祈願、

商売繁盛祈願 合格祈願 等

○年末年始 神棚祭 氏神祭 家祓等

要予約

平成二十年厄年表

お早めにお祓いをお受け下さい

※上・生まれ年/下・数え年

	前 厄	本 厄	後 厄
男性	昭60年 24歳	昭59年 25歳	昭58年 26歳
	昭43年 41歳	昭42年 42歳	昭41年 43歳
	昭24年 60歳	昭23年 61歳	昭22年 62歳
女性	平3年 18歳	平2年 19歳	平元年 20歳
	昭52年 32歳	昭51年 33歳	昭50年 34歳
	昭48年 36歳	昭47年 37歳	昭46年 38歳

ホームページ <http://www.tsubonuma.org>

一月の行事 予定

○三日節分祭

事前に福豆を神社でお配り致しますので、希望者は御来社下さい。

○十一日紀元節祭 奉祝県民大会

日本の建国を奉祝し建国祭を執り行い、その後市内中心部で行われる祝賀式典に参加します。

○十七日頃 祈年祭

収穫を祈る大祭で新嘗祭とともに全国の神社で行われる重儀

例大祭のお知らせ

平成二十年の例大祭及び記念大祭は九月十五日を柱として、多くの皆さんにご参加頂くよう、休日に予定しております。

編集後記

今回第四号を発刊することが出来ました。皆さんに神社について理解を深めて頂き、ご自分の神社として親しみをもって戴きたいと始めた社報も発刊から二年が経ちました。よく読んでいただき、あたたかいお励ましなどを頂戴し本当に感謝しております。 私たちにとって、守らなければならない本当に大切なことを書いておりますので、是非この社報のことを広めていただけたら幸いです。

秋保神社社報

平成二十年 秋保神社御鎮座千二百年

令祀・秋保神社改称百年



◆神の恵みと祖先の恩とに感謝しましょう

◆初詣は先ず総氏神の秋保神社へ

◆月に一度は神社をお参りしましょう

二 挨拶

本年もいよいよ押し迫って参りました。秋保大神様のお導きのもと、私こと七月に宮司に就任以来間もなく半年を過ぎようとしておりますが、これまで総代若長を始め氏子崇敬者多くの皆様の支えを頂戴しながら、格式ある秋保神社の真に重き任を何とか務めさせて頂いております。 そのような中、なんと嬉しいことか、有り難いことか、神社を守っていかねばならないと、例年に益して沢山の方が自ら進んでお祭りや境内清掃などに一生懸命ご奉仕を頂きました。 大神様の御加護の賜と感謝申し上げます。 これからも、この輪が少しずつ広がっていくよう切望する次第です。

今の世の中、一番大切で欠けている事は、何よりも敬神の念ではないでしょうか。 秋保には十分にその環境が整っており、若い方や次の世代へもその心を受け継ぐことが私達のこれからの使命と致します。

平成二十年挙行

秋保神社 御鎮座千二百年

令祀・改称百年

秋保神社が歴史に登場するのが、大同三年(西暦八〇八)で来年の平成二十年には千二百年という誠に大きな記念の年を迎えます。秋保神社となる以前、当社は諏訪神社と称しており、五百年ほどの歴史を有しておりますが、それ以前は、坂上田村麻呂が征夷大將軍として東国を平定しようとした際に、これに赴いた際に勧請したと伝わる熊野神社が鎮座しており、これが千二百年前と伝えられております。

更には明治四十二年に、秋保五カ村の全神社をまとめて秋保神社と改称し、名実ともに秋保総鎮守の村社となつてから、同じく来年には百年という大きな節目の時を迎えます。 奇しくも平成二十年が秋保神社にとり、また秋保町にとっても意義深い、悠久の歴史の中でも、特別な年となります。 この佳き年に、神社においては、記念大祭及び記念事業などを計画しております。 何卒ご協力を宜しくお願い申し上げます。

例大祭 演芸大会 齋行

昔から秋保一の盛儀で知られる、秋保神社恒例の例大祭が、今年も九月十五・十六両日にわたり盛大に執り行われた。

天候にも恵まれ、十五日午前十一時には、例大祭の神事が総代若長をはじめ内外の来賓が参列する中、厳粛に執り行われた。午後五時頃からは仙台市無形文化財の神楽が奉納され、引き続き夕闇の頃になると、特殊神事である湯立て神事が行われた。そして、両日とも午後六時半から奉納演芸大会が賑やかに行われた。今年も、かつて各地区持ち回りで行っていた時のような賑やかさを復活すべく、以前のような地元を中心に心籠もる奉納型式に戻そうと、秋保市民センターの協力も戴きながら皆で企画し、福引きも行う等手作りで実施した。



実行委員は大変ではあったが、努力は稔り、大勢の参拝者で境内はあふれんばかりで、鎮守の神様のお祭りらしい、素晴らしいお祭りとなった。

新嘗祭齋行

今年も十一月二十三日に恒例の新嘗祭が総代・若長らが参列し厳粛に齋行された。新嘗祭は皇居をはじめ全国の神社で大祭として執り行われる最も重要なお祭で収穫を喜び御神徳に感謝する祭儀である。

稲作と共に暮らしてきた私達日本民族にとつて米は命の源であり、まさに神の恵みであり、当社においても、氏子の皆さんから奉納になった沢山の初穂をはじめ収穫物を神前にお供えし、感謝の誠を捧げた。新穀の奉獻に当たっては、何十年ぶりに復活したお米をお入れ頂く袋を配布し総代若長に集めて頂いた。

そのお初穂は、新嘗祭に神前に全て供え、一人一人の芳名を祝詞で奏上し、奉納者には祈願したお札を授与した。

今後お米は年間を通して神前に供する予定で、二月には豊作を祈る祈年祭が齋行される。

感謝の心と、祈る心、大切にしたいものです。



横山のように積み上げられた新穀

子宝和合の神 山の神 現る



子宝和合の神

新聞にも「ちのく」欄で報じられたが、去る九月九日、例大祭の前に

総代らが境内を綺麗にしようと、神社前の竹林を刈り払っていた時、その中に何かの柿の古木があり、やむなくお祓いをして伐採し切断していたところ、某総代が突然珍しいものを見つけた。皆が寄ってまじまじと見ると誠に女神と言われるまかせ不思議な姿で、奇妙なものも付いており、「これは有り難や」と特別に神社の御神体としてまつることとなった。綺麗に皮をむき、現在は拝殿前に子宝和合の神として大切に安置している。

さらに不思議なことに、実はこの時、男神である道祖神を祀る境内社の奏神社を直した直後のことであつたことから、男女が揃うこととなり誠に御神意を感じた。今後はより多くの人々に御利益がわたるよう大切に鞘堂を建てて祀りたいと思う。少子化や結婚する人が少なくなってきた。昨今、是非あやかっていたきたい。

ご祭神のご紹介 第四回

秋保神社のご祭神は九柱を数え、元村社諏訪神社に明治四十二年旧秋保町の全神社（無格社）の御神体を遷し合わせ祀られた。そのご祭神のうち、今回は湯元の湯神社のご祭神である大口貴之命（おこなむちのみこと）の縁起を「ご紹介致します。

湯元地区の守護神である湯神社の御祭神は、湯の神様もである大口貴之命であり、「なばの白うさぎ」で有名な出雲大社の御祭神である大国主命と同一神で、日本国中広く信仰され、大黒様としても親しまれる尊い神様です。

古より秋保は御湯の湧き出する温泉として名高く、信心深い先人達はその恵みに感謝し、湯神社を建立しお祀りしました。

時代を経て、明治四十二年、無格社合祀の勅命により、村社である長袋の諏訪神社・現在の秋保神社に合祀されることとなり、故に湯神社の御祭神は現在、秋保神社の御本殿に祀られております。

その後、湯元では湯神社跡のお宮に鞘堂を建てて、お祭りをするなど、今でも心ある方々が熱心に信仰されております。



境内末社修理改修（御寄附のお願い）

秋保神社の境内には他に四つの神社があり、本殿脇の一番大きな熊野神社、次に稻荷神社・雷神社、そして拝殿前の奏神社が末社として祀られております。特に熊野神社は千二百年の歴史を持つ由緒ある神社であり、どの神社も代々大切に護られてまいりました。



見事に修復された奏神社

しかし現状では全て老朽化著しく、大神様に大変申し訳ない有様となつていたため、先ずは拝殿前の奏神社の修復を実施、続いてそれ以外の三社についても修理改修に取り掛かっており、年度内の完了を目指しております。

新年は真新しいお宮でお迎え致したく、何卒皆さんの真心籠もる御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。



修復を待つ境内末社の三社

お願い各地区のお宮も同様に節目の年を迎えておりますので、改修の音が聞こえておりますが、その際は「協力願います。

総代紹介

- | | |
|-----------|---------|
| 総代長 境野総代 | 柴田 林 |
| 副総代長 野尻総代 | 二瓶 久 |
| 副総代長 大原総代 | 渡辺 徳男 |
| 滝原総代 | 佐藤 秀夫 |
| 野口森安総代 | 斎藤 秀夫 |
| 駅総代 | 中野 正幸 |
| 加沢総代 | 小山 勝彦 |
| 野中総代 | 丹野 伊勢三郎 |
| 並木総代 | 伊藤 勇夫 |
| 町総代 | 鈴木 孝次郎 |
| 館総代 | 高橋 幸助 |
| 竹の内石神国久総代 | 猪又 勳 |
| 産子総代 | 佐藤 奉直 |
| 崇敬者総代 | 安藤 哲夫 |

祭典実行委員会（仮称）の発会（向けて）

本年の例大祭は総代若長を中心として、有志も加わり、実行委員会形式で執り行った。非常に盛り上がり、これはお祭りのありかたや、地域の活性化のためにも、大変意義深いものではないかと感じた。

平成二十年度は、正式に実行委員会が組織されるので、老若男女いろいろな方が入って、自ら地元の神社を盛り上げて戴きたい。